

北朝鮮に旅して（95・7・21）

大川 美雄（昭17・9文丙）

大川でございます。

何故北朝鮮に行く事になったかと言いますと、昨年の一月から、(株)日本交通公社の顧問になったのです。行ったら途端に北朝鮮から沢山の日本の観光客を招きたいという話が入って来ているがどう思うかと相談を受けたものですから、いいじゃないか、但し韓国や中国の意向も念の為に打診した方がいいかもしれないし、外務省にも一寸挨拶に行ったらどうかと言ったら、韓国や中国の大使館も、外務省の北東アジア課もみんな激励してくれたので交通公社がこれを実行することにした訳です。後で聞いた話によると、今回の四月の終りから五月の初めにかけて、平壤（ピョンヤン）で大々的なスポーツと文化交流のイベントが行なわれて、それを機会に外国人を沢山呼ぶことにしたとのことでした。

北朝鮮側は国際旅行社がすべての段取りをやり、日本側では日本交通公社が約千名、中外旅行

社という北朝鮮系の旅行社が約二千名位日本人をお世話したというふうに聞いております。その他に台湾から五百人、中国から四千五百人、アメリカ、豪州その他ヨーロッパ等から合せて約千人、合計一万人近くの外国人が四月の二六日頃から五月にかけてあそこへ行ったという事になります。古山君は上海経由で安東から入っていかれたそうですが、我々のグループは新潟から、高麗航空のチャーター機でピョンヤンまで直行で行った訳です。普通はベイジン経由でピョンヤンに入る訳ですが、今回は新潟から直行できた事が非常によかったです。査証なんかもちらが何もしなくて、北朝鮮の国際旅行社がみな手配してくれました。我々のグループは四ツのコースから一つを選ぶことができました。いづれのコースもピョンヤンから入るのですが、ピョンヤンだけのコースとピョンヤン金剛山コース、ピョンヤン・妙香山コース、ピョンヤン、開城（ケソン）・板門店（パンムンジヨム）コースと四ツあったのです。私が選んだのはピョンヤン、開城・板門店のコースです。

四泊五日という事で本当に駆け足で見廻りました。最初から勿論こうだろうと予想した事もあったし、おやつと若干意外に思った事もありました。たった四泊五日で向うが見せようと思つ所、連れて行きたい所しか行かれない訳です。その意味では本当に表面をかすつた程度で、本当に行きたい所は見られなかったし、自由に歩き廻ってかかってに行動するという余地もほとんどありませんでした。これは当初から予想された通りで驚かなかつたのです。ピョンヤンに着きまし

て空港からいきなり金日成（キムイルソン）前總統の銅像の前につれていかれました。空港でバスに乗り込む前にガイドさんがそこに花を売っていますからご希望の方は買って行って下さいと言つて、空港から直接銅像の所へ連れて行かれ、その前で一列横隊に整列させられて、小さな花束を買つて行かれた婦人が、代表で花をささげられ、その光景がその夜のテレビに出ました。それから一分間黙とうして、それで初めて写真を撮つてもよろしい、自由に歩き廻つてもよろしいとなります。でもキムイルソンの銅像を背景に写真を撮るにもキムイルソンの身体を二ツにちよん切つてはいけなないと、近くから撮れば上半分がちよん切れるので近くからは撮れない。相当の距離からはなれて撮り、全容を入れる。そうしないとフィルムを抜き取られた人がいるのです。其の他「偉大なるキムイルソン同志」を称える巨大なる記念碑とか、凱旋門とかいろんな所を見せられました。キムイルソンの生家を案内されて、川の横の高台の所で勉強したという場所にも行きました。面白いと思つたのが、我々がその生家から出て来て写真を撮つていると、後から若い何十人かの男女学生が列になつてずーっと歩いてきて、それはキムイルソンの生家の見学に、「おまいり」にくるのです。所が彼等の表情を見ると、まったく家の中とか、台所とか、道具類とか、家具とか見向きもしないで、退屈しきつた顔をして出てくるのが面白かったです。もうあきあきした様な、しょうがないから連れてこられたという、そういう様な感じを受けました。そういう場面が写真にも撮つてあります。

我々があっちこっち連れて行かれて見せられた所は恐らく大部分が北朝鮮側がこういう物を外国人に見せようと予め決めて、予めだんどりをして演出したぶんが多分にあるでしょう。ですけどそうでない部分も多分にありました。決して演出じやない北朝鮮の普通の人達のごく自然な姿にも接する事も出来ました。例えば地下鉄に乗せられましたが、ずうと深い、モスクワの様に深い地下鉄でした。その地下鉄に乗るとごく普通の子供やおばあさんが座っていてその中に混って一緒に乗りましたが、それは演出じやないですね。しかも電車は三分おき位に入ってきて来て、極めて能率的で乗りごこちも悪くないというふうに思いました。もう一ツ北朝鮮の人達の自然の姿に接したと思われたのは、ある大きな公園の様な所を歩き廻っていたら一群のおばあさん達が芝生の上に毛布を払げて酒盛をやっているのです。かなりアルコールが入っているようで、そのうちの一人が急に立上って我々のグループの若い青年（三〇位）をつかまえて、だきついてダンスをさせたのです。そういう事もあらかじめアレンジしたとは思えない。ごく自然な出来ごとに接したと思います。もう一ツ一寸意外だったのはそういう一般の人達に会った時に、我々に対して若干の好奇心は示すが、何ら敵愾心、反感は感じませんでした。日本の過去にやった事を考えれば若干はそういう日本人に対する怒りの表情を見せるかと思つたのですが、まったく感じませんでした。少なくともピョンヤンではまったく感じませんでしたし、他の所に行っても感じませんでした。その点がやや意外でした。

勿論日本の事は何も知らないし、日本語も出来ない。他方我々は北朝鮮の事を何も知らないし朝鮮語もまったく出来ない人が大部分ですし、字さえも読めない訳です。所が我々に同行してくれた三人の若いガイドさん達は一生懸命勉強したらしくて、若干たどたどしいけれども実に上手に日本語で案内してくれました。あれには一寸頭が下りました。日本人でこれからの国に行く人達は多少なりとも朝鮮語をかたことでも知っていて、文字も多少は読めるぐらいの心がけを持って入って行くのが望ましいと感じました。他にもう一ツピョンヤンで凱旋門というすごいコンクリートの門があるんです。日本から解放された記念ですかね、これはパリーの凱旋門より一〇m高いのだと、こういう説明がつくんです。それからピョンヤンの東北の方へ四〇キロ位行った所にタングン陵という大きなピラミッドの様な陵があるんです。これは何かというと、朝鮮の国を始めた、いわば神武天皇に当る人らしいのです。それが従来は神話的な人物として信じられていたんですが、ごく最近に遺骨と遺品が出てきたという事で、大きな花崗岩で作った巨大なピラミッドが建設された訳です。その足もとに到達するのに四百何十段ほどの階段を上って行く訳です。上って行ったらピラミッドの後ろの方に小さな入口があつて暗い通路を入っていくと、一番真中の所にお棺と称する物が置いてある部屋があるんです。二ツ並んでいるのです。その中に何が入っているのか知りませんが、要するにタングンという人とその夫人がいたという証拠なんだそうです。しかもこれは五千十一年前の物だと説明するのです。どうやって五千十一年と正確な

数字に到達したのか説明はありませんでしたが、とにかくそういった巨大な遺跡だとか、記念碑だとか、凱旋門だとか、そこらにいっぱいあるのです。そればかり見せられますといささか途中でうんざりする訳ですが、初めて国を外国人に開放する事に決めた国としては暫くの間はそういう事になるでしょうね。暫くはこれから行く観光客はそういった事には我慢して付き合つて行かざるを得ないという事じゃないでしょうか。

それからピョンヤンから南の方にバスで二時間位行った所に、開城（ケソン）という、昔のコウリョウ王国の首府だった町があります。それはピョンヤンと違って昔風の古い朝鮮風の建物があつたり、ピョンヤンの冷たい感じのする大通りから来ますとホットする様な感じの所です。そこに高層のホテルじゃなくて昔の民家であつたと思われるバンガロー的な小さな建物に宿させられました。床下がオンドルで暖められていてその上に敷布団を敷いて布団をかぶつて寝るのです。お風呂も暫く、十五〜二十分位するとお湯が出てきました。お風呂も入つたし、食事もおいしい物が出てくるし、サービスをしてくれる給仕人の女の人達もとても感じが良く、印象に残りました。ケソンで特に申し上げたい事は博物館の事です。博物館の中に仏像だとか彫刻だとか色々有りますけれど、大変素晴らしい磁器が無造作に置いてありました。大変な物です。大阪の中の島に東洋陶磁美術館、昔の安宅コレクションの素晴らしい物が有りますが、それに匹敵する物がいくつあつた様に思います。それが狭いガラスの中にぎっしり詰つて入っているの

す。これを一ツ一ツ取り上げて立派な箱に入れば素晴らしい物です。家内が案内してくれた若い男のガイドさんに、私どもは大理石の立派な凱旋門や巨大な建築物よりもこういうものが一番面白いのだと、こういう物をもっと大切に立派な器に入れて外国人にお見せになれば喜ばれますよ、ということ言ったそうです。そしてガイドさんがきよんとした顔をして首をひねったそうです。要するに昔の古くからの伝統的な文化・芸術品等よりも、パリの凱旋門よりも一〇メートル高い凱旋門とか、そういう物を見せたいのです。まあ暫くの間、何十年かはそういう事が続くのだろうと思います。

ケソンから更に約一〇分南へ行った所に例の板門店（パンムンジョム）があります。今から二十年位前に南の方からパンムンジョムの軍事休戦委員会の会合が行われる所まで案内してもらった事があるのですが、その時は怖かったですね。一寸境界線に近寄りすぎたらアメリカのMPが私の腕をつかんで危いと引っぱりよせたのです。と、いうのは向うの方から北朝鮮の兵隊が怖い顔をして近づいてきたのでMPが心配したのでしょう。そんな緊張感がありました。ところが、今回はなんとも実になごやかで、およそ二十年前には考えられなかった様な雰囲気でした。それで写真にも有りますけど、軍事休戦委員会の開かれる小さな木造の平屋建ての建物がありました。その真中に、巾がこれくらいテーブルが横長に置いてある訳です。みどりの布がかけてあって、その真中に線が引いてあるのです。それが北と南の境界線だそうです。今回はその建物の中に入

って、しかもテーブルの反対側に廻って、テーブルにも着席させて頂きました。私が国連軍側に座って家内が北側から写真を撮ってくれました。北朝鮮にいる家内が南朝鮮にいる私の写真を撮ったのです。だから昔とは大分雰囲気が変わったという事だと思えます。その休戦監視委員会の会議場の窓の外に、こっちに北側の兵隊さんがいてすぐ握手が出来るぐらいの距離に国連軍の韓国の兵隊が立っているのです。握手したかどうか知りませんが、言葉をかわしているのを見ましたね。およそ二十年前には想像出来なかった様な雰囲気になっているという感じでした。問題は、しかし中立国監視委員会、これは北朝鮮の方で役にたたないということで、北側に招かれて駐在しているチェコとポーランドの中立国の人達は国へ帰えらされているのです。とくに休戦時代は終って、もうこれからは平和条約を結ばなくてはいけないのだと言う事で、北朝鮮は米国の平和条約を結びたい訳です。現在、一九五三年に結ばれた休戦協定しかない訳ですから理論的にはまだ北朝鮮とアメリカ合衆国は戦争状態にある訳です。それを早く平和条約を結んで普通の状態に持って行きたいというのが北朝鮮側の非常に望んでいるところです。韓国なんか眼中にない訳です。北では、韓国は南朝鮮（ナムチョソン）と申しています。韓国から見れば北は北韓なんだそうです。南の同胞達は米帝の奴隷にされて、非常に気の毒な生活をしてるんだというふうにならぬ方の人は信じ込んでいます。パンムンジヨムの雰囲気がそういう風に変ったというのが印象的でした。

なお、後で北朝鮮側の軍人さんで色々説明してくれた人に、まわりに人が少なくなつた時に通訳を通じて、南の方を指しながら、「あっちの方には核兵器はあるのか」と聞きましたところ、「あります、一三〇〇発、」と数字をいふんです。「こっちにはあるの。」と聞きましたら、「うちの方はありませんし、持つつもりもありません」との答えが返つて来ました。その時に家内が横につつ立っていると、いきなり家内をつき飛ばして、ピョニャンから一緒に来て来た平服の男が私と北の軍人が話している所を突然写真を撮りはじめたそうです。今度私が行こうとしたらビザが出ないかもしれません。その平服の男はピョニャンからバスに乗りこんで来た時に、パンムンジョンでのガイドをする人だと我々に紹介されたのですが、パンムンジョンに着いてみるとガイドさんらしい事をしないでつつ立っているんです。それで私が北の軍人さんと話をしたら突然写真を撮りだしたから、明らかにインテリジェンス関係の人だったんでしょね。北のガイドさんもパンムンジョンにいる兵隊さんもそうですが、喜んで一緒に写真に入ってくれる訳ですよ。これも二十年前にはおおよそ考えられなかつた事で変わってきているんだなという感じを受けます。駆け足で言うとなんな所です。

(東洋英和女学院大学客員教授)